

大門だより

No. 8
(478号)

荒川区立大門小学校
校長 神田 やよい
令和7年 11月 1日

大門小ホームページ

荒川区立大門小学校

検索

《本校の教育目標》 考える子 やさしい子 たくましい子

「 平和が育んだ文化 」

副校長 萩野 隆介

11月に入りました。朝晩は冷え込むようになり、ようやく秋が来たと実感できるようになってきました。秋と言えば、読書、運動、食欲など様々なことを連想することができます。11月3日（月）は文化の日で、「自由と平和を愛し、文化をすすめる日」として1948年に制定されました。

さて、私たちが暮らしている日本には世界に誇る豊かな文化が根付いています。その基盤を築いた時代の一つが江戸時代です。約260年に渡り、戦乱のない天下泰平の世の中が続いた結果、文化は武士だけのものではなく、様々な人々へと広がり爛熟の時を迎えることになります。

特に江戸の町で花開いたのは町人文化です。庶民の娯楽として歌舞伎、相撲が人気となり、日常生活や流行を描いた浮世絵は多くの人々に愛されました。また、松尾芭蕉に代表される俳諧も多くの方が親しみました。これらの文化には「粹（いき）」や「いなせ」という江戸っ子特有の美意識が息づいています。単なる豪華さだけではなく、洗練された格好よさや潔い生き方を尊ぶ価値観です。質素な中に美しさを見出し、限られた自由の中で精神的な豊かさを追求する姿勢は、現代を生きる私たちに通じるものがあるのではないかでしょうか。

また、江戸時代は学問が大きく発展した時代でもありました。武士の子弟が藩校で学ぶ一方、町や村では寺子屋が広まり、庶民も「読み・書き・そろばん」といった実生活に結び付く学問を身に付けました。当時の日本は、世界で有数の識字率を誇る社会であったと示されています。（江戸時代の識字率は全国で約50～60%程度。ヨーロッパでは約10～20%程度といわれている。）身分や性別を問わず人々が自ら学ぼうとする意欲をもち、さらにそのための環境が整っていたことが、後の日本の急速な近代化に繋がっていったと考えられます。

江戸時代の文化の多くは、歌舞伎、落語、寿司、天ぷらなど形に残るものや学びの精神として現代の私たちの生活に深く根付いています。平和な時代が続いたからこそ、人々は遊び心を忘れず、学ぶことを尊重し、日々の暮らしの中に美しさを見出していました。現代社会もまた変化が激しい時代ですが、江戸文化に学んだ「自ら楽しみを見出す力」や「自らすんで学ぶ姿勢」は子どもたちが未来を切り拓いていくうえで大切な力になるはずです。これからも教職員一同、子どもたちの「粹」な学びと豊かな成長を支えていきます。

来月はいよいよ100周年記念式典です。引き続き、御支援と御協力を願いいたします。

★尾久地区連合運動会入賞者★

◎男子100m走 5位 15"66 ◎男子800m走 4位 2'53"04

◎女子100m走 1位 16"44 ◎女子800m走 1位 3'06"91

2位 16"62

◎男子50mハードル走 3位 8"78

3位 16"74

◎女子学校対抗リレー 1位 1'15"97

